

北大形成外科

# アカデミー

2018.5.12(sat) 16:10-18:25

北海道大学医学部フラテ会館ホール

## Session 1

### 教育研修施設リポート

市立函館病院 形成外科

南本俊之

帯広厚生病院 形成外科

北村 孝

青森新都市病院 形成外科

岩寄大輔

## Session 2

### 北成賞2018受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉

林 利彦

〈基礎研究論文部門〉

岩寄大輔

〈若手研究者部門 "La Primavera"〉

草島英梨香

## Session 3

### 特別講演

北里大学 形成外科・美容外科 教授

武田 啓



代 表：山本有平

事 務 局：北海道大学医学部形成外科学教室

〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目

e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長：林 利彦



# PROGRAM

## Session 1

### 教育研修施設リポート

(16:10~16:55) 15分×3  
Moderator : 林 利彦

- ▶ 市立函館病院 形成外科
- ▶ 帯広厚生病院 形成外科
- ▶ 青森新都市病院 形成外科

南本俊之  
北村 孝  
岩崎大輔

## Session 2

### 北成賞2018受賞記念講演

(17:00~17:20) 5分×4  
Moderator : 舟山恵美

#### 〈臨床研究者部門〉

林 利彦

Hayashi T, Furukawa H, Kitamura T, Shichinohe R, Murao N, Oyama A, Funayama E, Maeda T, Yamamoto Y: Review and proposal of regional surgical management for melanoma: revisiting of integumentectomy and incontinuity dissection in treatment of skin melanoma. Int J Clin Oncol 22: 569-576, 2017

北成賞を受賞させていただきありがとうございます。対象論文は、悪性黒色腫において原発巣から所属リンパ節までの中間組織を含む連続的切除を施行した症例の臨床成績を報告したもので、結論としては、有意差はないが局所制御に優れている可能性が示唆されました。1970年代にも連続切除の局所制御における優位性が報告されていますが、それ以後に報告はなく、今回ICG蛍光法を利用した改良法を治療アルゴリズムとともに紹介しました。

#### 〈基礎研究論文部門〉

岩崎大輔

Iwasaki D, Yamamoto Y, Murao N, Oyama A, Funayama E, Furukawa H: Establishment of an acquired lymphedema model in the mouse hindlimb: technical refinement and molecular characteristics. Plast Reconstr Surg 139: 67e-78e, 2017

このたび基礎研究論文部門の栄誉に与りましたことを大変うれしく思います。リンパ浮腫の病態解明のために、新たなマウス後肢リンパ浮腫モデルを開発しました。このモデルを用いて、分子生物学的手法でリンパ管新生因子の発現の解析を行いました。新たなモデルは一定期間、安定的な浮腫が持続して、リンパ管新生因子の再現性のある発現を認めることから、リンパ浮腫の研究を行う上で有用なツールとなる可能性があります。本講演ではこの論文の内容について要点を報告いたします。

#### 〈若手研究者部門 “La Primavera”〉

草島英梨香

Kusajima E, Furukawa H, Funayama E, Oyama A, Mitsuhashi T, Yamamoto Y: Vesiculobullous melanoma: an unusual manifestation of in-transit metastasis. Clin Exp Dermatol 42: 767-770, 2017

このたび北成賞を受賞する栄誉を賜りましたこと、本当に感謝しております。ご協力していただいた皆様に深く御礼申し上げます。症例は、87歳男性。2年前に足底原発の悪性黒色腫として拡大切除を施行し、フォローアップ中に下腿の水疱形成を認めました。生検を施行し同部の水疱は足底の悪性黒色腫のin-transit転移であることが判明しました。水疱形成が皮膚症状として現れる悪性黒色腫は過去に8例の報告をみるのみで、自験例と併せミニレビュー形式で報告しました。

## Session 3

### 特別講演

(17:25~18:25) 60分  
Moderator : 山本有平

### 「毛髪治療－ガイドライン2017に基づく治療戦略と再生医療－」

北里大学 形成外科・美容外科 武田 啓 教授

疾病や外傷、あるいは加齢による脱毛は見た目の問題として時に深刻な悩みとなります。このため外科的、内科的治療をはじめ、より有効で安全な治療が求められてきました。また、毛には毛周期があり発生段階と同じような現象を繰りかえしていると考えられ、発生生物学の研究対象としても注目されてきました。

美容医療として扱われる脱毛症は加齢によるものや男性型脱毛症が主ですが、腫瘍切除後や外傷などによる瘢痕性の脱毛もしばしば経験されます。これらに対する外科的治療では、単純切除、皮弁形成術、組織拡張器、植毛術など様々な手技が工夫され症例に応じて適応されてきました。

一方、男性型脱毛症の内科的治療ではDHT阻害薬が広く普及しました。日本皮膚科学会による男性型脱毛症に関するガイドラインは昨年改定されましたが、これまでの標準的治療に加え女性の男性型脱毛症に対する概念や未承認の毛髪再生医療についても触れられています。大きく変わりつつある脱毛症の治療ですが、当然限界もあります。特に手術は毛髪の移動であり数を増やすことはできません。解決のために何らかの再生技術が必要になります。これまでの様々な研究により毛包の再構築は徐々に可能になってきていますが、臨床応用にはいくつかのハードルがあることも事実です。

本講演では新ガイドラインを踏まえ毛髪医療の現状を整理し、また、我々が取り組んできた毛包再生の基礎研究についても触れてみたいと思います。

#### 【学歴・職歴】

1985年 産業医科大学医学部卒業  
1985年 北里大学病院 形成外科 研修医  
1992年 北里大学医学部 形成外科学 助手  
1995年 北里大学医学部 形成外科学 講師  
2000年～2001年 米国ハーバード大学  
ブリガムアンドウィンズ病院 形成外科 留学  
2005年 横須賀共済病院 形成外科 部長  
2009年 北里大学医学部 形成外科・美容外科学 准教授  
2014年 北里大学医学部 形成外科・美容外科学 主任教授  
現在に至る



#### 【所属学会等】

日本形成外科学会 評議員  
日本創傷外科学会 評議員  
日本美容外科学会 評議員  
日本頭蓋頸顎面外科学会 代議員  
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科指導専門医  
同 小児形成外科分野指導医  
日本がん治療認定機構 がん治療認定医

#### 【受賞歴】

2000年4月 日本形成外科学会 学術奨励賞